

I 令和3年度の成果(数値目標)

数値目標	成果
(1) 学校運営・組織	
① 学校評価の満足度 生徒 85%、保護者 85%	生徒 88.2 %、保護者 90.4 %
② 服務事故	0 件
③ 日常のOJTの満足度	80%
(2) 学習指導	
① 授業研究・校内研修の実施	学期1回 授業研究・校内研修 年間10回実施
② 自宅学習時間 1,2学年 2時間 3学年 2時間30分 4,5学年 3時間	1学年2時間15分 2学年1時間48分 3学年1時間42分 4学年2時間48分 5学年2時間40分
③ 教員相互の授業観察	学期に1回以上 学期に1回以上実施(授業観察時等)
④ 全学年・全教科・科目の年間指導計画の改善及び生徒への配布	計画通り実施
⑤ 指名制による授業研究 延べ5人 大学入試分析会・教科指導講座等 延べ60人	延べ5人 延べ32人+オンラインによる実施
⑥ 10分の読書時間の確保	年間1800分 年間1800分
(3) 進路指導	
① 長期休業日中の講習 夏期講習・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・130講座の開設・受講者延べ2,000人 冬期講習・全学年で実施 ・40講座の開設 ・受講者延べ500人 春期講習・全学年で実施 ・40講座の実施 ・受講者延べ200人	夏期講習 ・全学年実施 ・生徒提示 6月 ・講座125講座・受講者延べ3228人 冬期講習※ ・全学年実施 ・講座29講座・受講者延べ658人 春期講習 ・講座19講座・受講者延べ361人
② 進学実績(現役) ・大学入学共通テスト試験5教科7科目型受験者 90人 ・難関国公立大学等(東大、京大、一橋大、東工大、国公立大医学部)現役合格者 10人 ・国公立大学合格者 50人 ・難関私立大学(早大、慶大、上智大、東京理科大)現役合格者 70人	81人 14人 60人 55人
(4) 生活指導	
① 行事の満足度	85%以上 生徒62.2% 保護者63.0%
② 縦割り活動を取り入れた行事数	年間5件 2件
③ 規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組	3件 4件
④ 朝のHR遅刻者数	3,000以下 2,767
(5) 国際探究	
① 大学と連携した取組	7取組 5取組
② 英検 各学年の目標級の取得率(全体で)	70% 62.8%
③ 学校評価アンケート 「学校は国際教育に積極的に取り組んでいる」80%	新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修旅行などが中止、十分な国際教育が実施できず 生徒 64.6% 保護者 58.8%
(6) 安全・環境美化・健康指導	
① 前期避難訓練	10回 11回
② 後期避難訓練	4回 5回
③ 地域や関係機関と連携した防災教育	1回 1回

(7) 募集・広報・地域活動		
① 本校での学校説明会 参加者数	3,000 人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web 開催に変更し申込者数を制限 1,102 人
② ホームページ 更新	150 回以上	212 回
③ 地域等に広報誌「Tachikoku Times」発行	10 回	11 回発行
④ 応募倍率 一般枠	5.0 倍	5.09 倍
(8) 施設設備管理・経営企画室運営		
① 第3四半期 管理運営費と自律経営推進予算の執行率	85%以上	79.5 %
② センター執行率	55%以上	57.3 %
③ 令和4年度予算編成	2月完了	2月完了
④ 施設設備の課題改善または実施計画	100%	100 %
(9) 附属小学校の開校		
① HPによる工事計画等の発信	随時	5 回
② 朝礼等を通じた安全指導の実施	随時	随時

II 令和2年度の成果（重点目標）

- 重点目標1** 国公立大学合格者50人 難関私立大（早大、慶大、上智大、東京理科大）70人
⇒ 国公立大学合格者60人 難関私立大（早大、慶大、上智大、東京理科大）55人
- 重点目標2** 学校評価アンケート「学校は国際教育に積極的に取り組んでいる」80%
⇒ 生徒64.6% 保護者58.8%
- 重点目標3** 朝のHRの遅刻者数 3000以下
⇒ 2767
- 重点目標4** 自宅学習時間の確保 1、2年生 2時間 3年生 2時間30分
4、5年生 3時間
⇒ 自宅学習時間の確保 1年生 2時間15分 2年生 1時間48分 3年生 1時間42分 4年生 2時間48分 5年生 2時間40分
- 重点目標5** 学校評価 生徒の満足度85% 保護者の満足度85%
⇒ 生徒88.2% 保護者90.4%

III 令和3年度を取組と評価

(1) 学校経営・組織

- ① 企画調整会議を通じて分掌間での課題の共有はできているが、課題解決に向けたスピード感にばらつきがある。そのため、教職員一人ひとりの当事者意識を向上させる必要がある。
- ② ライフ・ワーク・バランスを意識した働き方改革を目指し、生活指導部と保健相談部を一体化し効率的・効果的な業務運営や、管理職からの喚起等による超過勤務の縮減を図った。優先度を意識した業務の精選については、引き続き進めていく。
- ③ 企画調整会議を中心とした校務運営は定着しているが、教科主任会議及びPDCA会議で出された課題や対応策を校内で共有し学校運営に生かす仕組みが必要である。
- ④ 授業評価の結果について教員個々へのフィードバックを行った。学校評価の結果については、課題が教職員間で十分に認識されていないため、学校運営の改善・向上に生かしきれていない。
- ⑤ 本校グランドデザイン及びコモンルーブリックを指標に教育活動の実践を深化するとともに、このグランドデザイン等を基に各教科でシラバスの作成を進めた。
- ⑥ 若手教員による研究授業の事前事後指導や「立国タイムズ」や教育庁内紙による学校紹介の記事作成等と連動させたOJTを継続した。
- ⑦ 当初に予期していなかった学校運営上必要な経費について、経営企画室との迅速な連携により確保し、円滑に教育活動を進めた。
- ⑧ 週休日の勤務の事前申請の徹底など、日々の服務規律意識は高まっている。体罰防止については「相手の心に届く 言葉かけ」をスローガンとした、研修等を通じ体罰を根絶する意識の徹底を図ったが、調査では配慮のない言動が1件あった。

(2) 学習指導

- ① 本校グランドデザインと連動し、中高一貫教育6年間のメリットを最大限に生かした体系的な新教育課程を実施し、今後は各教科で作成しているシラバスに基づいた教育を展開する必要がある。
- ② 全教科で主体的・対話的な深い学びを目指した授業が増えている。今後も大学入学共通テストに対応した学習指導について情報収集を進め、生徒の達成感を高める指導方法の工夫を継続する。
- ③ 校舎内改修工事に伴い、個人ブースのある自習室が確保できなかったが、代替場所をねん出し、後期生を中心に開放した。今後は良質な学習環境の整備を進める。
- ④ 長期休業中における予備校等での進学指導研修に参加する教員が増え、難関大学合格に直結する教科指導力は確実に高まってきている。大学入学共通テストに対応した教科指導力を継続して高めていく。

（３）進路指導

- ① ケース会議・大学入試分析会の充実など後期課程での体系的な進路指導は徐々に整いつつある。コロナ禍のため職場体験はできなかったが、前期課程において、保護者による職業紹介や進路講演会など、生徒が将来を自分のこととして考えるキャリア教育を実施し、今後も継続していく。
- ② ケース会議・大学入試分析会を通じたデータ分析に基づく指導は行っている。今後は、効果的な進路指導に向けて、ノウハウを有する業者との連携をさらに充実させていく必要がある。
- ③ 例年に近い講座数を確保するとともに、受講しやすい設定を行い、受講者数を得たほか、昨年度に続き平日の朝講習、放課後講習を行った。
- ④ 保護者会や進路だより、学校ホームページ等を中心に、分かりやすい進路情報発信を継続する。

（４）生活指導

- ① 登下校指導や挨拶励行指導、遅刻指導、服装指導、SNSマナー指導等を通じて、生活習慣の確立を徹底した。また生徒情報交換会を定期的の実施し、個々の生徒の状況に応じた指導を行った。
- ② コロナ禍でホームルーム活動や学校行事、部活動等が十分にできなかったが、学校行事の実施方法の工夫や、ホームページ上から校歌の音源を聴けるようにするなど、生徒の帰属意識を高める取組を行った。
- ③ コロナ禍のため、三祭（体育祭、文化祭、合唱祭）等の学校行事や生徒会・委員会活動が十分できなかったが、昨年度に引き続き代替行事の実施など工夫した取組を行い、異年齢集団での活動を図った。今後は中高一貫教育校の特性を生かすだけでなく、これまでの取組を生かしながら、国際社会で活躍できるリーダーを育成する指導を充実させていく。
- ④ いじめ対策委員会や、事案発生に迅速に対応するサポートチーム委員会等を通じて、校内での情報共有とともに、教育相談センター等の関係機関との連携を進めた。
- ⑤ 地震や火災など様々な災害を想定し、生徒に事前学習など工夫しながら避難訓練を実施したほか、地元消防署や地域と連携し、VR車・起震車を活用した体験型の防災訓練を実施した。

（５）国際探究

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、東京グローバル10指定校として、例年のような十分な国際教育が実施できなかったが、生徒の豊かな国際感覚の醸成を図るため、外国人留学生との交流や多文化共生に関する講演などを実施した。
- ② 総合的な探究の時間では、SDGsに関連した事項やリーダーシップ教育など、本校の教育目標に沿うテーマに絞り実施した。
- ③ 全学年での継続した英検指導や、ケンブリッジ英検（4学年）、TEAP（5学年）の受検に向けた指導を年間計画に基づき実施し、高いスコアを継続している。
- ④ 都教委の次世代リーダー育成道場や文科省のトビタテ留学希望者も多いため、今後も関係機関との連携を強化し豊かな国際感覚を持つリーダーを育成する。

（６）安全・環境美化・健康指導

- ① 避難訓練、前期朝礼時の安全指導、養護教諭による事故報告カードの徹底などを通じて、生命尊重を第一に据えた生活指導を推進した。
- ② 定期的な生徒情報交換会やスクールカウンセラーを交えた臨時ケース会議など、発生した事案に対して全教職員で迅速に対応し、カウンセリングマインドを高める体制を継続した。
- ③ 生活指導と保健相談を連動させ、前期生・後期生の一貫した健康保持意識の向上を継続した。
- ④ 特別支援教育に関する研修や情報交換会等を通じ、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じた適切な対応ができた。

(7) 募集・広報・地域活動

- ① 総務部を中心に、本校の魅力を発信する組織的な取組が定着している。応募倍率を高めることを目指すため、今後も生徒募集対策への新たなアイデアを検討し、さらなる工夫を行う。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響により動画配信による学校説明会となったが、学校施設見学会を急遽実施したほか、全国誌での学校紹介や、私塾の説明会への参加、地元の私塾への訪問を通じ、募集対策も兼ねて本校の魅力を広く発信する取組を行った。
- ③ 学校ホームページの更新回数を増やし、年間を通じて広報誌「Tachikoku Times」を近隣中学校や地域に配布するなど、開かれた学校の実現のため情報発信力を強化した。ホームページを活用し、知りたい情報にアクセスしやすい環境整備に今後も努めていく。
- ④ コロナ禍のため、近隣の小学生対象の部活動体験や地域の曙まつりに吹奏楽部が参加するなど、例年行っている地域の関係機関と連携した本校の教育活動の効果的な情報発信ができなかった。

(8) 施設設備管理・経営企画室運営

- ① 企画調整会議や管理職間の打ち合わせ等を通じて、業務の進捗状況の確認を徹底し、迅速かつ効率的な業務遂行を目指した進行管理を適切に行った。
- ② 施設設備に問題が発生した際は、学校経営支援センター等と迅速に連絡調整を行い改善した。
- ③ 予算執行について、関係部署と早め早めの連絡調整を徹底し適切に処理した。

(9) 都立小中高一貫教育校の設置

- ① 都立学校教育部や西部学校経営支援センター等と連携するとともに、関係機関及び施工業者との工事調整を進め、建築中の安全確保を行った。
- ② 校舎改修等について、関係機関及び施工業者との工事調整を進め、改修中の安全を確保したほか、教育活動への影響を抑えた。